

第97回宝生流能楽鑑賞会

日本伝統芸能

能楽鑑賞会

能玉葛 福岡聡子
狂言 附 鶴飼 佐野弘宜
子 炭哲男

令和5年4月23日(日) 午後1時開演(12時開場)
ハピリンホール能舞台 福井市にぎわい交流施設
(JR福井駅西口「ハピリン」3階 福井市中央1丁目2-1 TEL 0776-20-2901)

前受入場券 4,000円・当日入場券 5,000円(前受入場券をご希望の方は、事前の申込みが必要です。)
申込みは事務局 (TEL 0776-24-7851) に問合せいただくかホームページをご覧ください。

新型コロナウイルス感染防止の為、お越しの際はマスクを着用して下さい。当日は体温チェック、手指の消毒をお願いし熱のある方は来場を控えて下さい。尚、万一感染が発生した場合は保健所提出の為、連絡先の記入をお願いします。

主催 宝生流福井能楽会 後援 福井市 福井新聞社

能組

能

シテ 福岡 聡子

玉 葛 ワキ 平木 豊男

大鼓 飯嶋六之佐
小鼓 住駒 俊介 笛 江野 泉

間能村 晶人

後見 大坪喜美雄
広島 克栄
佐野 弘宜
山岸 誉 藪 克徳
佐藤 裕則 佐野 由於
地謡 沢崎 嘉一 島村 明宏
鈴木 重寛 川島 英治

狂言

附子

シテ 炭

哲男

アド 能村 祐丞
小アド 炭 光太郎

後見 能村 晶人

休憩十分

能

シテ 佐野 弘宜

鶺鴒

ワキ 北島 公之

大鼓 飯嶋六之佐 太鼓 麦谷 暁夫
小鼓 住駒 幸英 笛 江野 泉

ワキツレ 渡貫 多聞

間 中尾 史生

後見 佐野 由於
福岡 聡子
地謡 和田 義一 島村 明宏
谷 清士 大坪喜美雄
芦田 嘉和 広島 克栄
藪 克徳

演目解説

能 玉 葛 (たまかづら)

旅の僧が奈良の社寺を巡拝の末、初瀬の長谷観音へ参詣に行こうと初瀬川の辺りまで来ると、舟を漕いでやってくる一人の女性がいます。女は、僧と共に長谷寺に参り、有名な二本(ふたもと)の杉へ案内します。そして「源氏物語」の玉葛の話をして聞かせます。幼い玉葛は母夕顔の死後九州を脱出し、この二本の杉で母の侍女の右近と出会い、光源氏に引き取られたと話し、やがて自分こそその玉葛であるとほめかして消え失せます。

僧が哀れに思って読経していると、玉葛の亡霊が髪を乱した姿で現れます。そして、男たちとの間の恋の迷いのせいか、死後の今も妄執の苦しみから抜け出せない身なのだと思われ、乱れた思いに狂い舞います。が、やがて昔のことを懺悔して仏の教えにすがり成仏したとみるや、僧も夢から覚めます。(宝生の能より)

能 鶺鴒 (うかい)

諸国行脚の僧が途中、甲斐国石和川のほとりの古びた御堂で夜を明かすこととなります。夜が更けると川面が明るくなり鶺鴒が篝火を焚き、舟には年たけた鶺鴒使いがおります。僧は老人に殺生をやめるように説得しますが、従僧の一人がこの老人を見て、以前にこの辺で行き遭い、殺生をやめるように説いた老人であることを思い出します。実はこの老人は石和川の禁漁区域での密漁により、極刑にかけられて殺されたその亡霊なのでした。老人は罪ほろぼしのために僧の目前で鶺鴒を使う業を見せ、その後、冥途へ帰って行きます。

僧たちが川瀬の石に法華経の経文を書き、川に投じて弔っていると、閻魔大王が出現し、鶺鴒使いは地獄に墜ちるべきであったが、今の法華経の功力と嘗って僧を撰した徳によって極楽へ導くのだと言いつ法華経を讚美して消え去ります。(宝生の能より)

狂言 附子 (ぶす)

用足しに出かける主人が、太郎冠者と次郎冠者を呼び出し留守番を言いつける。主人は桶を指し示し、この中には附子という猛毒があるから注意せよと言っておく。主人が出かけたあと、二人がこわいもの見たさに桶のふたを取ってみると、中に入っていたものは砂糖なので、二人は食い平らげてしまう。そして、その言いわけのため、主人秘蔵の掛軸を破り、台茶碗を打ち割る。やがて主人が帰宅すると、二人そろって泣き出し、留守中に居眠りなどせぬように相撲を取っているうちに、たいせつな品々をこわしてしまったので、死んでお詫びをしようとする。附子を食ってしまったが、まだ死なないと報告するので、怒った主人は二人を追い立てる。(能・狂言事典)

※場内での撮影・録音・録画は固くお断り致します。

申込、公演案内

宝生流福井能楽会 事務局 天野和彦
福井市 三郎丸2-908 TEL/FAX 0776-24-7851

【宝生流福井能楽会のホームページ】

<http://www.mitene.or.jp/~y-sato>

福井能楽会 検索



会場案内図

